③個人追究:図や式に表して追究し，求め方を説明する。

②学習課題：分けたり，付け足したりして，分度器で測れる角（180°や360°）にして角度を求めてみよう。

②見通し:分度器の目盛りは180°までしかないので測れない。

→180°より小さい角に分ければよい。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・半回転は180°，一回転は360°であることを理解している。

・分度器を使って180°より小さい角度を測ることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・角を回転量としてとらえる学習をしている。

・重ねたり数値化したりして角の大きさを比べる学習をしている。

教材研究ノート№4-B-1

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・180°で線をひいて角を2つに分けることで，180°よりも大きい角でも角度を求めることができる。

・角度はたしたりひいたりして計算で求めてもよい。

④共同追究後半（思考を深める）

「角を分けたり，付け足したりして求めてもいいのかな？」

→「角の大きさは，1°がいくつ分だから，分けたりたしたりしてもよい。」「かさのときにも同じように計算した。」

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの求め方にも共通していることは何だろう？」

→「角度が分かっている角（半回転，一回転）を利用して，計算で求めている。」

⑥定着･活用問題

(1) 次の角の大きさをはかりましょう。

ア　　　　　　　　　　　　　　イ

(2) 丸いケーキを右の図のように6つに同じように

分けました。矢印のついた角の大きさは何度かな。

≪学習問題≫

の角の大きさをはかりましょう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・補助線をひくことのよさが実感できる場面である。Ｌ字型の図形の面積や多角形の内角の和を求める学習へつなげるためにも，補助線によって既習内容が活用できたことを強調したい。

・180°以下の任意の角に分けても角度は求められる。子どもから出なかった場合は，教師が提示し，180°で分ける方法と比較させることで，180°や360°を利用するよさを説明させるとよい。